



慶應義塾

杉並三田会



気ままに歩こう会

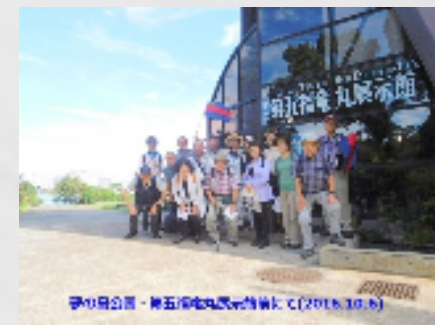
世話人 鈴木 裕 40経

夢の島公園散策とゲートブリッジを歩く会(第117回例会)実施報告

(相次ぐ台風の来襲や秋雨前線の停滞で「秋冷」の気候が続いた後に、久し振りに猛暑のぶり返りで蒸し暑い1日となった9月27日(火)。参加者18名。(他に10/6アンコール会参加者15名)。9時30分に新木場駅を出発。午前中は、かつての東京のごみの最終処分場であった「夢の島公園」内を散策。園内のレストランで昼食後、新木場駅前から都バスで「ゲートブリッジ」に向いました。



1978年に面積433千㎡におよぶ緑豊かな都立のスポーツ公園として生まれ変わった「夢の島公園」内では、ビキニ環礁で死の灰の洗礼を受けた「第五福竜丸」の展示館や、熱帯雨林の環境モデルとなっている「熱帯植物館」を見学しました。その形状から「恐竜橋」とも呼ばれる「ゲートブリッジ」は、ゴルフ場やキャンプ場・海釣り用栈橋等のレジャー施設が整う「江東区若洲」と「大田区城南島」の間、約8kmを結ぶ「東京港臨海道路」の一部で、全長は2,618m。水面からの高さは最上部で



87.8mある橋上のプロムナードからのベイサイドの眺めは、異国に来たかのような感がありました。新木場駅にゴール・解散、15:00時。歩行距離約3km。

気ままに歩こう会

都電荒川線・尾久の原公園・あらかわ遊園散策の会(第119回例会)

雲一つない好天に恵まれた11月17日(木)。参加者25名。東西線・早稲田駅を午前8時30分にスタート。都電荒川線を利用して荒川区北部・隅田川の南側に点在する古刹・古刹巡りと、同区内の代表的な公園である「尾久の原公園」・「あらかわ川遊園」の園内散策をして来ました。

広大な原っぱや芝生広場が広がり、街中とは思えない自然味が溢れる「尾久の原公園」(62千㎡)のやき並木や「荒川区の木」・枝垂れ桜の叢林は、早くも紅葉の見頃を迎えており、人影もまばらな中、遠足で訪れたのか、幼稚園児の賑やかな声が響いていました。

「尾久の原公園」に隣接する「首都大学東京荒川キャンパス」の、ガラス張りで明るく広々とした学食で昼食を済ませた後は、「あらかわ遊園」(大正12年開園)。日本一遅いコースターと低料金で、低年齢の子供向きに特化した老舗遊園地では、暫し童心に返ることが出来ました。

(歩行距離:荒川線・町屋2丁目電停～荒川遊園地前歩行距離電停5.6km。)



荒川区・尾久の原公園にて(2015.11.17)



荒川区・尾久の原公園にて(2015.11)



2015.11.17



東京都荒川区・あらかわ遊園にて(2015.11.1)

12月8日 気ままに歩こう会

リーブステーキ・ランチと皇居一周ウォーク（第120回例会）実施報告

最低気温5℃。絶好の冬晴れとなった12月8日(木)。参加者45名。

午前8時40分に東京駅・丸の内中央口をスタート。凜とした空気の中、「和田倉噴水公園」で軽くウォーミングアップの後、「皇居東御苑」、「二の丸庭園」、「北の丸公園」やお濠端の周辺に点在する史跡を巡りながら、今年の納会となった、「皇居一周の紅葉狩りウォーク」を開始しました。数日前の木枯らしが吹き荒れた責か、いずこの公園の紅葉も少しピークを過ぎたようでしたが、その分、色とりどりの落ち葉を踏みしめながら歩く楽しさもありました。フロリダ州マイアミ生まれのリーブ専門店・「トニーローマ三番町店」が今回の昼食場所。久しぶりの大人数で賑やかにリーブステーキ他のランチを楽しんだ後、「半蔵門」から「日比谷」まで、旧江戸城土塁の松の緑が水面に映える「桜田濠」を眺めながら散策。「松本楼」のケーキセットで暫し、心地よい疲れを癒した跡、午後3時40分「霞が関駅」で散会としました。



気ままに歩こう会初詣、柴又七福神めぐり

(第121回例会・アンコール会) 実施報告

実施日：2017年1月18日(水) 本番と同様 雲一つない冬晴・
最高気温10℃ ・参加者18名。(本番1/5は25名)・集合・解散・歩行
コース・昼食場所は 本番(1/5)と同じ。 参加者が本番より少なく、柴又
帝釈天界限も正月気分が一段落し、松の内ほどの混雑が見られなかったこと
もあり、極めて順調に柴又散策ができました。



武蔵野市の戦争遺跡巡り(第122回例会)実施報告

実施日2017年4月6日(木)(当初3/2を雨天延期)。強風・晴・最高気温21℃。参加者は25名(下見会2/21・14名参加)。武蔵境駅をスタート。第2次大戦で繰り返しB-29による空爆の標的にされた日本有数の軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」(現武蔵野中央公園)の周辺に遺る戦争の傷跡(遺跡)を巡って 三鷹駅まで歩きました。(歩行距離約8.3km)歩行コース等実施要領は「分科会予定」参照)。
僅かながら大戦の記憶がある筆者として満開の桜を見上げながら、将来に新たな戦争遺跡が生まれることなく、いつまで平和な日本であって欲しいと実感しました。

